(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | ＪＮＣ石油化学株式会社<br>市原製造所 |

**（２） 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア 計画年度に実施する対策の内容**

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 2 | 5 3 | 5 4 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 2 | 5 3 | 5 4 | | | | | | | |

（その四）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | ＪＮＣ石油化学株式会社<br>市原製造所 |

## ３　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

### （１）　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度<br>平成１２年度 |
|---|---|
| 使　用　量<br>（kg／年度 ）<br>（１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | <br>6.1×１０8 |
| 排出等の量<br>（kg／年度） | 7300000. |
| 処理回収率<br>（%） | 100. |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基） |
|---|
| |

備考
１　この項の提出は任意であること。
２　基準年度は、２(１)の基準年度と一致させること。
３　使用量及び排出等の量は、２(１)の基準年度におけるものと一致させること。
４　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
｛（使用量－排出等の量）／使用量｝×100

### （２）　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | 53 | 54 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 三井･ﾀﾞｳ ﾎﾟﾘｹﾐｶﾙ株式会社<br>千葉工場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア　計画年度に実施する対策の内容**

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 6 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 6 | | | | | | | | | |

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | デンカ株式会社<br>千葉工場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア　計画年度に実施する対策の内容**

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １９ | ３１ | ３９ | ４１ | ４９ | ５１ | ５２ | ５３ | ５６ | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策１】について

・塩ビテープの粘着剤の溶剤をトルエンから水系エマルジョンへ変更する。

【対策３】について

・スチレン系樹脂（ＡＳ樹脂、ＭＢＳ樹脂等）の製造プロセスを、バッチ重合法からＶＯＣ排出量の少ない連続重合法へ転換する。

【対策５】について

・メタクリル酸メチルおよびアクリロニトリルの屋外タンクに、蒸気の船戻し配管を設置し、船受入れ時の大気放出を削減する。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １９ | ３１ | ３９ | ４１ | ４９ | ５１ | ５２ | ５３ | ５６ | |

（その三）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 株式会社　レゾナック<br>五井事業所 |

（２）　揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 5 1 | 5 4 | 5 6 | 9 1 | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 9 | 2 1 | 2 3 | 3 2 | 5 1 | 5 6 | 9 1 | | | |

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | ＡＧＣ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２） 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 3 2 | 5 1 | 5 3 | 5 4 | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| |

備考 ３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 1 3 | 3 1 | 3 2 | 5 1 | 5 3 | 5 4 | | | |

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 大阪国際石油精製株式会社<br>千葉製油所 |
|---|---|

（２） 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 2 | | | | | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| 対策1 について |
| 充てん出荷施設に設置稼動している炭化水素回収装置（ＶＲＳ）の吸収溶液について、出荷作業台数に対する適正循環量調整を徹底し回収率を高める。 |
| |
| ＶＲＳの回収率目標８５％以上に対して、令和７年度実績の９６％を維持した運転調整を行い削減に努める。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考 ３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 2 | | | | | | | | | |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 大阪国際石油精製株式会社<br>千葉製油所 |
|---|---|

３　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度 |
|---|---|
| | 平成１２年度 |
| 使用量（kg／年度）（１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | 77×10^09 |
| 排出等の量（kg／年度） | 800000 |
| 処理回収率（%） | 100 |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基) | |
|---|---|

備考

１　この項の提出は任意であること。

２　基準年度は、２(１)の基準年度と一致させること。

３　使用量及び排出等の量は、２(１)の基準年度におけるものと一致させること。

４　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

｛(使用量－排出等の量）／使用量｝×100

（２）　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | | | | | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| 基準年（平成１２年度）以前から、充てん出荷施設に吸収法処理装置を設置しており、千葉県大気汚染緊急時対策要綱に定められた期間（４～１０月）の稼働を実施しています。<br>平成１５年度からは通年として処理装置を稼動しています。<br>また、高揮発性有機化合物の屋外貯蔵タンクにおいては、当初より浮き屋根式屋外貯蔵タンクまたは内部浮き蓋付屋外貯蔵タンクを採用して建設しています。 |

備考　この項の提出は任意であること。

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 矢澤光学塗装株式会社<br>千葉工場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア　計画年度に実施する対策の内容**

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 2 2 | 2 3 | 3 4 | 5 2 | 9 1 | 3 3 | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 2 2 | 2 3 | 3 4 | 5 2 | 9 1 | 3 3 | | | |

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 日本リファイン株式会社<br>千葉工場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア　計画年度に実施する対策の内容**

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２　１ | ２　９ | ３　２ | ５　２ | ９　１ | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策２について

屋外貯蔵タンクの品種変更の為の洗浄乾燥の際に、親水性の有機溶剤を水洗により回収した後、乾燥する手順を遵守する。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２　１ | ２　９ | ３　２ | ５　２ | ９　１ | | | | | |

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 三菱製鋼株式会社<br>千葉製作所 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア　計画年度に実施する対策の内容**

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２ ２ | ３ ４ | ５ １ | ５ ５ | ９ １ | ９ ９ | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策６について |
| ・塗装膜厚管理を管理値の下限に近づく様に改善する。 |
| ・塗装仕様を客先と打合せて変更する(重ね塗り回数の削減)。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２ ２ | ３ ４ | ５ １ | ５ ５ | ５ ９ | ９ １ | ９ ９ | | | |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 三菱製鋼株式会社<br>千葉製作所 |
|---|---|

## ３　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

### (1)　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度<br>平成１２年度 |
|---|---|
| 使　用　量<br>（kg／年度 ）<br>（１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | １８０００．<br>．　×１０ |
| 排出等の量<br>（kg／年度） | ７５０００． |
| 処理回収率<br>（%） | ５８． |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基） |
|---|
| |

備考
１　この項の提出は任意であること。
２　基準年度は、２(1)の基準年度と一致させること。
３　使用量及び排出等の量は、２(1)の基準年度におけるものと一致させること。
４　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
｛（使用量－排出等の量）／使用量｝×１００

### (2)　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２２ | ３４ | ５１ | ５５ | ９１ | ９９ | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策６について |
| ・塗装膜厚管理を管理値の下限に近づく様に改善した。 |
| ・塗装仕様を客先と打合せて変更した(重ね塗り回数の削減)。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | ティー・エム・ターミナル㈱<br>市原事業所 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア　計画年度に実施する対策の内容**

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 1 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

＜VOC排出量の増加理由＞

・タンク倉庫業の為、顧客の要望する貯蔵油種となり揮発性有機化合物の排出量を削減できない。

・

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 1 | | | | | | | | | |

（その四）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | ティー・エム・ターミナル㈱<br>市原事業所 |

## ３　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

### (1)　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度<br>１２年度 |
|---|---|
| 使　用　量<br>（kg／年度）<br>（１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | 2200000. |
| 排出等の量<br>（kg／年度） | 2100. |
| 処理回収率<br>（%） | 100. |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基） |
|---|
| 0 |

備考
１　この項の提出は任意であること。
２　基準年度は、２(1)の基準年度と一致させること。
３　使用量及び排出等の量は、２(1)の基準年度におけるものと一致させること。
４　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
{（使用量－排出等の量）／使用量}×１００

### (2)　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 51 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

備考　この項の提出は任意であること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | ＵＢＥエラストマー株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２） 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 29 | 39 | 51 | 54 | 91 | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| 対策１について |
| ・昨年度に引き続き、脱臭入口ＶＯＣ濃度を測定し４系列の負荷調整を行うと共に、廃ガス |
| 処理温度と脱着／吸着サイクルの管理を徹底させ、脱臭塔出口からのＶＯＣ物質の放出量を |
| 削減する。また、別系統のＲＨガスは脱臭装置送り禁止を継続する。 |
| ・脱臭装置ガスクロを増強し、監視を強化する。 |
| |
| 対策２について |
| ・ポンプ更改等によりシール部からの微量漏れの是正を継続的に進めていく。 |
| |
| |
| |
| |

備考 ３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 29 | 31 | 39 | 54 | 91 | 49 | 51 | | | |

（その三）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 丸善石油化学株式会社<br>千葉工場 |

（２） 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 3 2 | 4 1 | 5 1 | 5 2 | 5 3 | 5 4 | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| |

備考 ３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 3 2 | 4 1 | 5 2 | 5 3 | 5 4 | | | | |

（その四）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 丸善石油化学株式会社<br>千葉工場 |

3　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（1）　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度 |
|---|---|
| | 平成１２年度 |
| 使用量（kg／年度）（１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | 4.2×10 0.9 |
| 排出等の量（kg／年度） | 4500000. |
| 処理回収率（%） | 100. |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基) |
|---|
| 3 |

備考

1　この項の提出は任意であること。

2　基準年度は、２(１)の基準年度と一致させること。

3　使用量及び排出等の量は、２(１)の基準年度におけるものと一致させること。

4　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

{(使用量－排出等の量）／使用量} ×100

（2）　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | 32 | 41 | 52 | 53 | 54 | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| |

備考　この項の提出は任意であること。

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 東レ・ファインケミカル株式会社<br>千葉事業場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア　計画年度に実施する対策の内容**

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２　１ | ３　１ | ３　９ | ４　９ | ５　２ | ５　３ | ５　４ | ５　７ | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策３(39) |
| 屋外タンクから原料中間タンクへの補充方式を液面一定で補充することに設備変更を行い、原料 |
| 中間タンクの受け入れ時の排出ガス削減を継続中。 |
| 対策４(49) |
| タンクローリーからの受け入れ排出制御のベーパーリターンラインを設置し使用中。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２　１ | ３　１ | ３　９ | ４　９ | ５　２ | ５　３ | ５　４ | ５　７ | | |

（その四）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 東レ・ファインケミカル株式会社<br>千葉事業場 |

## 3　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

### (1)　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度<br>平成１２年度 |
|---|---|
| 使　用　量<br>（kg／年度）<br>（1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | 3100000.<br>×１０ |
| 排出等の量<br>（kg／年度） | 1400. |
| 処理回収率<br>（%） | 100. |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基） |
|---|
| |

備考
1　この項の提出は任意であること。
2　基準年度は、２(1)の基準年度と一致させること。
3　使用量及び排出等の量は、２(1)の基準年度におけるものと一致させること。
4　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
{（使用量－排出等の量）／使用量}×１００

### (2)　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 21 | 31 | 49 | 52 | 53 | 54 | 57 | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策３(49) |
| 酸化エチレン貯槽の圧力制御の圧力範囲変更（一定圧から圧力に幅）により、受入時の大気放出量 |
| の抑制を図った。 |
| タンクローリーからの受け入れ排出抑制のベーパーリターンラインを設置。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考　この項の提出は任意であること。

（その三）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 東レ株式会社<br>千葉工場 |

## （２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

### ア　計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策１０ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 49 | 51 | 56 | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| １．対策１（記号４１）について |
| 第９期ＰＲＴＲ対象物質削減対策設備として、アクリロニトリル浜貯槽に、内部浮屋根式タンクへの改造工事を実施【R2年2月19日事前協議書提出受理済】 |
| ２．対策２（記号４９）について |
| アクリロニトリル浜貯槽設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け－２０℃に冷却して、アクリロニトリルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。(コンデンサーはバックアップ用として残している) |
| メタクリル酸メチル浜貯槽設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け－２０℃に冷却して、メタクリル酸メチルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。 |
| ３．対策３（記号５１）について |
| 第７期ＰＲＴＲ対象物質削減対策設備（シリカゲル吸着塔）の設置 |
| 第１０期ＰＲＴＲ対象物質削減対策設備(シリカゲル吸着塔設置)設置【R2年2月19日事前協議書提出受理済】 |
| ４．対策４（記号５６）について |
| 第８期ＰＲＴＲ対象物質削減対策設備（３塔式蓄熱燃焼炉）の設置 |
| 第１１期ＰＲＴＲ対策設備削減対策設備(３塔式蓄熱燃焼炉)設置【R2年2月19日事前協議書提出受理済】 |
| |
| |
| |
| |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

### イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。

複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策１０ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 49 | 51 | 56 | | | | | | |

（その四）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 東レ株式会社<br>千葉工場 |

## 3　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

### (1)　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度<br>平成12年度 |
|---|---|
| 使　用　量（ｋｇ／年度）<br>（１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | 27000000.<br>×10 |
| 排出等の量（ｋｇ／年度） | 2400000. |
| 処理回収率（％） | 99. |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基） |
|---|
| 1 |

(補足説明)2020年の定修工事(5~6月)にて
アクリロニトリル浜貯槽(1,903kl)を
内部浮屋根式タンクに改造

備考

1　この項の提出は任意であること。

2　基準年度は、２(1)の基準年度と一致させること。

3　使用量及び排出等の量は、２(1)の基準年度におけるものと一致させること。

4　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

{（使用量－排出等の量）／使用量　}×１００

(2)　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策１０ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 49 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| １．対策１について |
| アクリロニトリル浜貯槽設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け－２０℃に冷却し、 |
| アクリロニトリルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。 |
| メタクリル酸メチル浜貯槽設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け－２０℃に冷却 |
| し、メタクリル酸メチルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。 |
| |
| |

備考　この項の提出は任意であること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 京葉モノマー株式会社 |
|---|---|

（２）　揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 5 4 | | | | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 3 | 3 1 | 3 9 | 4 9 | 5 4 | 5 9 | | | | |

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 株式会社ENEOSﾏﾃﾘｱﾙ<br>千葉工場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア　計画年度に実施する対策の内容**

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ３　１ | ５　４ | ５　６ | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ３　１ | ５　４ | ５　６ | | | | | | | |

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 出光興産株式会社<br>千葉事業所 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

**ア　計画年度に実施する対策の内容**

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 3 9 | 4 1 | 5 1 | 5 2 | 5 9 | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（対策３９について）

従来、粗ﾍﾞﾝｾﾞﾝは弊社他事業所へ船転送し処理していたが、平成13年6月以降、当事業所内処理に内製化することで海上出荷に伴うVOC排出量を削減している。

（対策５９について）

平成26年度～28年度にかけ、一部の製造装置を停止、廃止したことによりVOC大気排出量は、基準年の排出量から90%以上の削減量している。

（対策３１の補足説明）

平成21年度はポンプ軸封からの飛散を減少させるために、軸封の改善を実施している。

（対策４１の補足説明）

ﾅﾌｻ等揮発性有機化合物は浮屋根式ﾀﾝｸ又は内部浮屋根式ﾀﾝｸに貯蔵し、貯蔵に伴うVOC排出量を削減している。

（対策５１の補足説明）

排出ｶﾞｽ中の揮発性有機化合物を吸着回収する設備の設置等により大気中への排出量を減少している。

（対策５２の補足説明）

ﾀﾝｸﾛｰﾘｰ充填・出荷施設にはVOC回収設備を設置し、VOC回収率90%以上の高回収率運転を行い、ﾀﾝｸﾛｰﾘｰ充填・出荷に伴うVOC排出量を削減している。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

**イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容**

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 3 9 | 4 1 | 5 1 | 5 2 | 5 9 | | | | |

（その四）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 出光興産株式会社<br>千葉事業所 |

## ３　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

### (1)　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度<br>平成１２年度 |
|---|---|
| 使　用　量<br>（kg／年度）<br>（１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | <br>1.6×10 |
| 排出等の量<br>（kg／年度） | 1400000. |
| 処理回収率<br>（%） | 100. |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基） |
|---|
| 5 |

備考
１　この項の提出は任意であること。
２　基準年度は、２(1)の基準年度と一致させること。
３　使用量及び排出等の量は、２(1)の基準年度におけるものと一致させること。
４　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
｛（使用量－排出等の量）／使用量｝×１００

### (2)　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 52 | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（ﾀﾝｸﾛｰﾘｰ充填・出荷施設のVOC回収実績について）

幣所ではVOC回収に積極的に取組んでおり、ﾀﾝｸﾛｰﾘｰ充填・出荷施設のVOC回収設備を平成2年3月に設置しました。当該設備は、VOC回収率90%以上の実績を誇り現在も順調に稼動しており、VOC排出量削減に大きく寄与している。

備考　この項の提出は任意であること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | ライオン株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）　揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 9 | | | | | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| 対策1について<br>当該貯蔵タンクの適切な管理によるＶＯＣ発生量の削減。 |

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 9 | 3 9 | 5 3 | 9 9 | | | | | | |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | ライオン株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

3　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（1）　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度<br>平成12年度 |
|---|---|
| 使用量（kg／年度）（1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | 8,000,000<br>×10 |
| 排出等の量（kg／年度） | 320,000 |
| 処理回収率（%） | 96. |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基） |
|---|
| 0 |

備考

1　この項の提出は任意であること。

2　基準年度は、2（1）の基準年度と一致させること。

3　使用量及び排出等の量は、2（1）の基準年度におけるものと一致させること。

4　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

｛（使用量－排出等の量）／使用量｝×100

（2）　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策1 | 対策2 | 対策3 | 対策4 | 対策5 | 対策6 | 対策7 | 対策8 | 対策9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | 53 | 99 | | | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| 対策3について<br>界面活性剤中の組成改善によるＶＯＣ発生量の削減。 |

備考　この項の提出は任意であること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | CHEMIPAZ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２） 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 9 | 5 2 | | | | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| 対策１について |
| ３９：ISO14001　VOC削減計画の実行 |
| タンクローリー車で屋外タンクに原料を納入する時、均圧管を設置し対応。 |
| また、屋外タンクの外部から散水しタンク内部の液温上昇を防いでいる。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考　３(２)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 9 | | | | | | | | | |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | CHEMIPAZ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

3　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（1）　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度 |
|---|---|
| | 平成14年度 |
| 使用量（kg／年度）（1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | 5100000.<br>~~×10~~ |
| 排出等の量（kg／年度） | 870. |
| 処理回収率（%） | 100. |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基) |
|---|
| |

備考

1　この項の提出は任意であること。

2　基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。

3　使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。

4　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

｛(使用量－排出等の量）／使用量｝×100

（2）　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策1 | 対策2 | 対策3 | 対策4 | 対策5 | 対策6 | 対策7 | 対策8 | 対策9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | | | | | | | | | |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| |

備考　この項の提出は任意であること。

（その三）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | ＤＩＣ株式会社<br>千葉工場 |

（２） 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

（１）の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 2 1 | 2 3 | 3 1 | 4 1 | 5 1 | 5 2 | 5 4 | 5 6 | 9 1 |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| |

備考 ３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

（１）の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 2 1 | 2 3 | 3 1 | 4 1 | 5 1 | 5 2 | 5 4 | 5 6 | 9 1 |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | ＤＩＣ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

３　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）　基準年度における処理回収率等

| | 基準年度 |
|---|---|
| | 平成12年度 |
| 使用量（kg／年度）（１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。） | 26×10⁸ |
| 排出等の量（kg／年度） | 5600000. |
| 処理回収率（%） | 100.0 |

| 基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基) |
|---|
| 0 |

備考

１　この項の提出は任意であること。

２　基準年度は、２(１)の基準年度と一致させること。

３　使用量及び排出等の量は、２(１)の基準年度におけるものと一致させること。

４　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

｛(使用量－排出等の量）／使用量｝×100

（２）　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 21 | 23 | 31 | 41 | 51 | 52 | 54 | 56 | 91 |

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| |

備考　この項の提出は任意であること。